

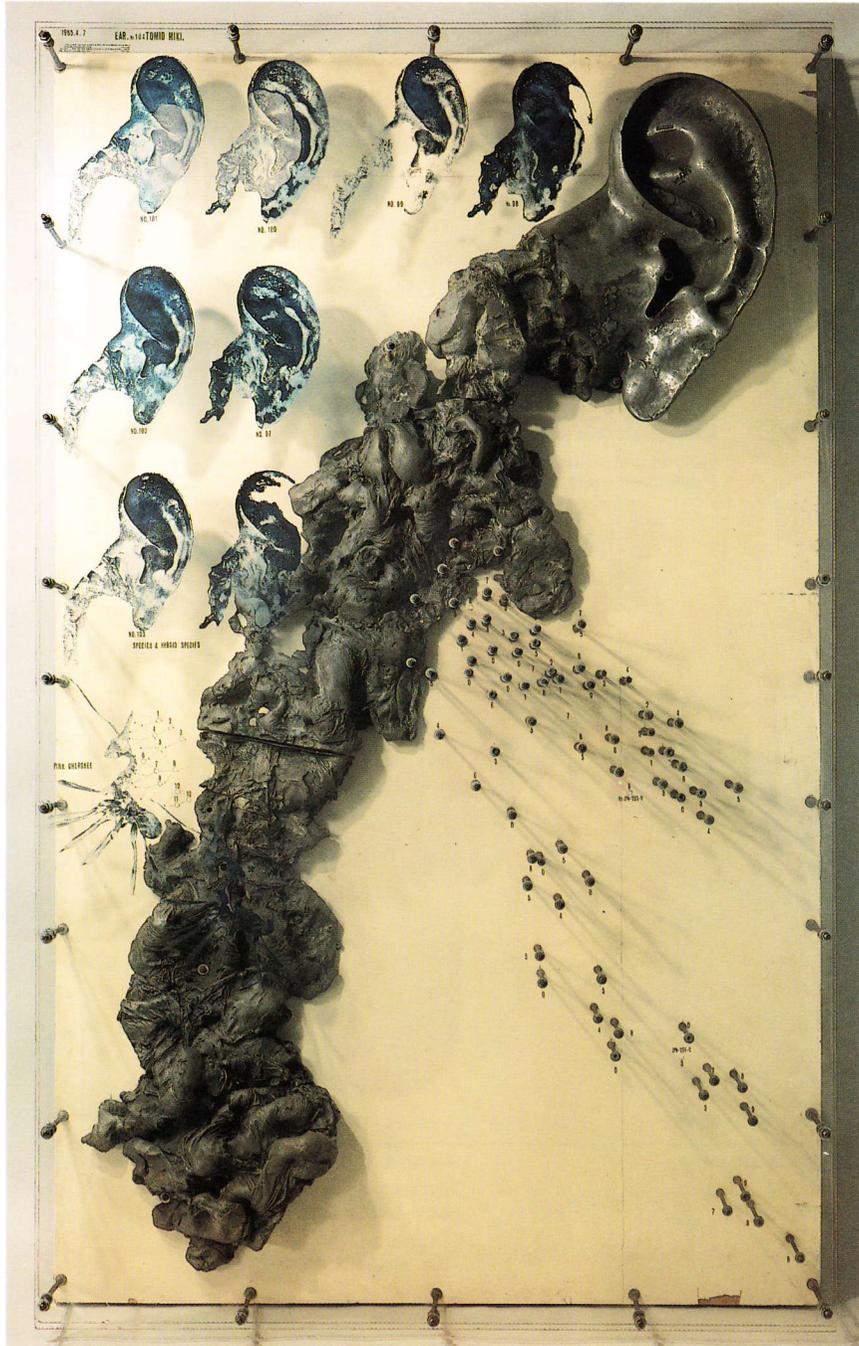
特別展

三木富雄

1992年12月2日(水) — 1993年1月24日(日) 渋谷区立松濤美術館

●開館時間 午前9時 午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日 12月7日月、13日申、14日月、21日月、24日木、12月28日月 1月4日月、1月10日申、11日月、18日月、19日火
●入館料 一般200(160)円、小中学生100(80)円 *()内は20名以上の団体料金

TOMIO MIKI



EAR No.104 1965年 200.5×122.5×23.6cm

三木富雄は、“耳”に選ばれ、“耳”を作りつづけた。
 「ミキノミミ」は最初の一点から極めて高い完成度を持っていた。
 身体的な部分を表現するものでもなく、象徴的な性格を持つものでもなく、
 一切の意味を拒否し、ただ、アルミニウムの物体でありつづけた。

三木富雄の生涯は、神話に綾どられていた。
 それは、巨大化した己の化身に怯えるかのように、自らが演じた芸術家としての存在証明でもあった。
 最後の読売アンデパンダン展で彗星のように登場し、“反芸術”のなかにあつて、ネオ・ダダの周辺を巡る。
 最期まで、特異でそして孤絶した存在であった。

三木富雄は、“耳”の呪縛にたいして果てしない闘いを挑みつづけている。
 それがいかに無力であったかは、残された夥しい“耳”が物語っているだろう。

一体、「ミキノミミ」とは何であったのか。

実物大から2位位までの様々な“耳”を約70点、さらに“耳”以外のコラージュ、
 版画、デッサン、関連資料など約50点もあわせて展示し、三木富雄の制作活動の全貌を再確認する。



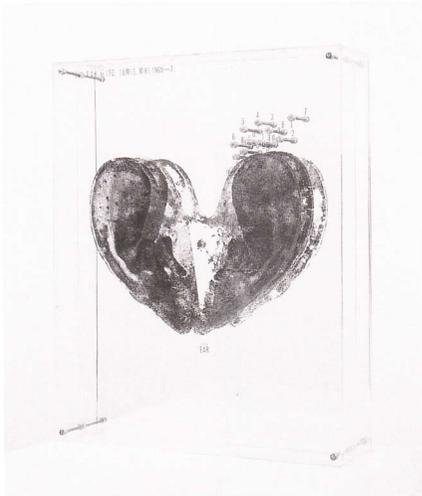
EAR 1964年 31.7×16.8×9.5cm



EAR 1972年頃 76.0×42.0×14.0cm
 富山県立近代美術館蔵



EAR 24.5×22.0×5.5cm



EAR No.120 1965年 52.0×43.0×11.2cm 高松市美術館蔵



EAR 1972年 78.0×44.5×17.5cm 名古屋市美術館蔵



EAR No.303 32.0×30.5×4.5cm 草月美術館蔵

●映画会—12月5日(土)、6日(日)、1月16日(土)、17日(日) 午後2時から4時

「他人の顔」

監督：勅使河原宏 / 原作：安部公房 美術：三木富雄

●講演会—

12月12日(土) 午後2時から

「耳と三木富雄」

赤瀬川原平(作家)

1月15日(金) 午後2時から

「三木富雄と現代美術の一断面」

小倉正史(美術評論家)

●美術相談

・12月6日(日) 2時 4時

講師 逸藤原三 山口忠一

・1月17日(日) 2時 4時

講師 佐久間公憲 戸田康一

東京都渋谷区松濤2-14-14 / TEL.03(3465)9421
 渋谷駅下車徒歩15分 神泉駅下車徒歩5分

